

シリーズ
女性e健康
VOL.101

体の片側だけにできる発疹と
激しい痛みが特徴

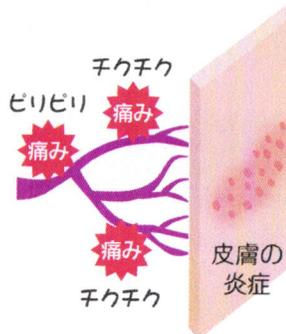
『带状疱疹』

背中やおなかにビリビリ、チクチクと激しい痛みが…。それってもしかすると「带状疱疹(たいじょうほうしん)」かもしれません。福山市医師会の内藤洋子先生(皮膚科)に原因や治療法などについてお聞きしました。

発症して72時間以内の治療が肝心



治療は抗ウイルス剤を投与



水ぼうそうと同じウイルスが原因で発症

起る病気で、子どもの頃などにかかった水ぼうそうは、治った後もウイルスが体の神経節に潜伏しています。何かのきっかけで、抵抗力が落ちてくると、そのウイルスが神経を伝わりながら炎症を起こし、神経が傷つけられて痛みが発症します。

出来るだけ早く専門医で治療します。また、などの医療機関を受診し、痛みや症状の度合いによって、痛み止めや神経の修から72時間(3日)以内に復を早めるビタミン剤な抗ウイルス剤を投与し、どを使うこともありまウイルスを弱らせることです。が大事です。通常、飲み

症状が長引く「带状疱疹後神経痛」に注意

通常は、皮膚の症状が経が変性したままた元に戻ると痛みも取れなくなりました。時にはベインクですが、時に、ビリビリと焼けるような痛みがいつまでも残ることがあります。これは「带状疱疹後神経痛」と呼ばれるもので、炎症を起こした神経が

チクチクした痛みと共に帯状の発疹が出る

体の左右どちらか片側に、チクチク、ビリビリとした痛みが起こります。その後、神経に沿って帯のような赤みやぶつぶつとした水膨れができます。ただれが出てじくじくしますが、1週間ぐらいでかさぶたになって、それが取れると次第に傷跡になって治っていきます。症状は、普通2、3週間で治まりますが、皮膚の症状がひどい場合は、痛みが何年も残ることがあります。

とがあるので、注意が必要です。

水ぼうそうのウイルスには、ほとんどの人が感染していますが、体力が低下してくる50歳代以上に多く見られます。最近特に60代以上の女性に増えていくといわれています。背中、おなかをはじめ、体のどこにも発症します。耳にできて聞こえが悪くなったり、顔にできて神経が麻痺(まひ)するなど、合併症を引き起こすこともあります。

水ぼうそう未感染の人との接触は避ける

带状疱疹は、通常うつばうそうとしての症状が出ることはありませんが、小さな子どもや水ぼうそうに未感染の人には接触しないよう気を付けましょう。

日頃から十分な休養を取り疲れをためない

带状疱疹の予防としては、日頃から疲れをためない、無理をせず、十分な休養を取ることです。かかったら、自宅で静養し、痛みの度合いによっては、仕事も休んだ方が良いでしょう。水膨れはつぶさないように保護し、はい菌が入るとさらにひどくなるので、清潔にすること。入浴はOKで、温める方が痛みが軽くなります。発疹の出た場所や範囲、症状によっては、入院が必要なこともあります。